

事業概要書

事業名	子どもたちの野外のあそび場「根浜あおぞらパーク」(岩手県釜石市)				
開始日	2020年5月1日	終了日	2020年8月31日	日数	123日
団体名	一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校				
(カウンターパート)					
担当者名	伊藤 聡	スタッフ人数	4人		

事業費総額(税込)	1,750,000円
CF事業枠	500,000円
その他資金	1,250,000円

事業目的	<p>震災から9年が経過し、ようやく「日常」を取り戻した子どもたちにとって、新型コロナウイルス感染症が長期化することによって生じる影響は肉体的にも精神的にも大きく、「復興の歩み」が停滞している。このままでは成長の過程において歪みが生じることが予測されることから、その“予防”を最大の目的として実施する。</p>
事業全体の概要	<p>●三陸ひとつなぎ自然学校とは 東日本大震災直後の2011年3月から、釜石市鶴住居川流域を拠点に被災地支援活動を開始。緊急支援として、地域外の支援団体と地域をつなぐボランティアコーディネート、あそび場を失った子どもたちの居場所づくり、避難所の物資配達・炊き出し、避難所や在宅避難地域の方の憩いの場づくり、ボランティアと観光を組み合わせたボランティアツーリズムなどの活動を展開。震災から約1年後の2012年4月1日、任意団体「三陸ひとつなぎ自然学校」を設立(2013年5月に一般社団法人化)し、現在は「地域のために立ち上がり、挑戦する人が多いまち」の実現を目指して活動を展開している。</p> <p>●取り組むべき課題 ウイルスという見えない脅威にさらされ続け、知らず知らずのうちにストレスが蓄積されている子どもたちを取り巻く現状は、2011年の東日本大震災後に重なると感じており、やっと日常を取り戻した子どもたちが再び震災直後のような状況に引き戻されつつある。</p> <p>学校が再開され子どもたちは学校に登校し始めたものの、感染を防ぐための制約が非常に多く、自由に遊べない状況は未だ継続している。特に岩手県は「全国で唯一感染者ゼロ」であるが、このことが大人・子ども双方にとって“自分が最初の感染者になってはいけない”という大きなプレッシャーとなつてのしかかっている。これにより、子どもたちが遊べる場所自体は解放されていても、感染予防を考えると大人の目がなければ安心して遊ばせることができない等、やはり外で自由に遊ぶというような雰囲気には未だ至っていない。このように、経済活動の再開とは裏腹に子どもたちを取り巻く環境は変わっておらず、今の緊張状態が続いていくことは想像に難くない。この状況が長期化</p>

すればするほど運動不足による集中力の低下やそれに伴う学力低下が生じることや、心に歪みを抱えたまま成長する子どもの増加が懸念されることから、その“予防”を最大の目的として実施する。

会場となる根浜シーサイドは、広大な天然芝の広場やキャンプ場、レストハウスといった環境が整った施設で、子どもたちが心を解放しながら伸び伸び過ごすことができる絶好の場所だといえる。感染拡大防止の観点から、対象を釜石近隣の子どもに限定し、3密回避や不特定多数が立ち入らないための人員配置といった安全管理を徹底することで、安全安心に過ごせる場の提供が可能である。

子どもにとっても大人にとっても自粛期間によって失われる時間は同じであるが、その価値は全く別物であることから、子どもたちの成長を止めないためにも、地域連携を活かした取り組みが今こそ求められている。

●パートナー協働プログラム対象事業

①子どもたちの安全安心な野外の居場所づくり事業

広大な天然芝の広場やレストハウスを備えた「根浜シーサイド」を拠点とし、ウィルスによる感染拡大を防ぐための最大限の対策を講じた野外の居場所づくり。

[期間] 2020年5月～8月の毎週末(土)、(日)

・5/16(土)、17(日) →既に繋がりのある子どもに絞ってテスト的に実施

・5/23(土)～8月末 →口コミでの周知をベースにしつつ本格スタート

※感染拡大や緊急事態宣言の状況によっては期間を柔軟に変更して実施

[時間] 10:00～15:00

[場所] 根浜シーサイド (岩手県釜石市鶴住居町 21-23-1)

URL : <https://nebama-seaside.jp/>

・天然芝の広場 (広さ: 約 100m×70m)

・キャンプ場、屋外トイレ

・レストハウス 多目的ホール (7.28m×9.1m)

畳スペース (7.28m×2.75m、12畳)

屋内トイレ

[対象] 釜石近隣に在住の小学生、未就学児(親子)に限定

[人数] 定員 40名/日

※但し、運用状況を見据えて人数調整を行なっていく

[周知方法]

・既存のつながりを活かした口コミをベースとした周知

・SNS (Facebook や LINE 等) を活用した連絡体制の構築

[開催判断]

・雨天や強風といった屋外での活動が困難な天候の場合は、屋内に人が集中することによる3密リスクが想定されるため開催しない。前日正午時点の天気予報や地元漁師さんの助言により決定し、速やかに参加予定者や SNS 等により周知を行う。

- ・ 感染拡大に伴い安全な状態での実施が難しい場合は開催しない。
また、感染リスクが十分に低下するまでは開催を見送る。

[安全管理]

既存の野外活動の安全管理に加えて、ウィルスによる感染拡大を防ぐための最大限の対策を講じる。

- ・ 安全管理マニュアル →既存のマニュアルにウィルス対策を追加して活用
- ・ 受付表、健康チェック表
→入場者の健康管理（参加者+スタッフ）
→入退場を管理することで不特定多数の出入りを制限
→参加者はシリコンリストバンドを装着することで識別する
- ・ イベント運営マニュアル
→運営スタッフおよびボラティアスタッフ用
- ・ （室内）換気管理表、消毒管理表
→概ね 30 分に一回程度の室内換気を行い、それを記録する
→出入口、テーブル椅子、トイレ等の消毒を定期的に行い、それを記録する
- ・ 参加者向けの利用条件表
- ・ スタッフシフト&配置表
→安全対策がなされた適切な配置になっているか管理する
- ・ これらの安全対策が適切に実行できているかモニタリングを行う
→ふりかえりシートを元に日々適切に実行できているか確認
→会場内に密集状態の場所が生じていないかのチェックを行い常に改善する
（特定の時間を設定して、場所ごとの人数を定期的にカウントする）
→換気や消毒適切に行われているか確認
- ・ 子どもでも分かりやすい感染症予防のセーフティトークを行う
→自分で考えて行動できる。自分自身の身を守る手段を身につける
- ・ 保護者にも、不特定多数の出入りが生じないための声かけに協力いただく
- ・ 安全管理対策が適切に行われているか、第三者の専門家より助言をいただく

[運営体制]

(一社)三陸ひとつなぎ自然学校 →事務局、事業統括、備品、人員、他

(株)かまいし DMC →根浜シーサイド指定管理者

(一社)根浜 MIND →備品

釜石まちづくり(株) →ポータルサイト「縁トランス」を活用した広報、人員

釜石市社会福祉協議会 →ボランティア募集、ボランティア保険適用

自然あそび広場にここ →子どもの見守り、安全管理

釜石市（※予定）

②悪天候時のオンライン配信プログラム

雨天や強風といった悪天候時は野外での活動は中止し、オンライン配信機能をつかったサイエンスクイズや、おうちの中でできる体操といった 20 分程度のプログラムを実施する。

	<p>[協力]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 釜石市体育協会 →体操プログラムの提供 <p>●期待される効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちが過ごす野外の安全安心な居場所として期間中 32 回実施、のべ 1280 人の子どもと親子が参加。 ・ 地域の大人に見守られ、釜石らしい自然環境の中で育つことで、子どもたちの郷土愛が生まれ未来の担い手としての成長が見込まれる。また、元気な子どもたちの姿は地域に希望を与える。(地域全体で子どもを育てる寺子屋) ・ 悪天候時に活用できるオンライン配信機能をつかったプログラムを期間中 8 回実施。これらの実践を通して ICT を活用した取り組みが促進される。 ・ 安全管理を徹底した居場所づくりのノウハウは、他地域で活用可能なモデルとなる。
事業内容(事業種別 (コンポーネント) ごと)	裨益者 (誰が、何人)
① 子どもたちの安全安心な野外の居場所づくり事業	子ども、親子 (40 人×32 日 =のべ 1,280 人)
② 悪天候時のオンライン配信プログラム	子ども、親子 (10 人×8 日× =のべ 80 名)